

税金を納める意味とは

彦根市立西中学校 3年 谷村 和奏

私は今住んでいる家に幼い頃引っ越してきましたが、当初、近くの車通りの多い道路には信号機がありませんでした。

信号機は、私が小学生低学年くらいの時に設置されましたが、設置されるまでの間、母はその道を通る時「曲がる時に、前からくる車が多くてなかなか曲がれない」「ぶつかってしまいそうで危ない」と言っていたのを覚えているし、小学生だった私が見ても危険だと思う状態でした。それに、歩行者としても反対側の歩道に安全に渡りにくい状態でもありました。だから、設置された時は「安全に渡れる」とうれしく思ったし、とてもスムーズに進めるようになり、交通事故のニュースを見るたび、大きな事故が起こる前に設置されて本当によかったと思います。他の道でも、通学中、車が歩道の中に勢いよく曲がってきて、ものすごく「ヒヤッ」としたことが何度もありましたが、二年前くらいにそれを防止するための棒が設置されたり、見えづらくなっていた横断歩道が、車の運転手から見やすくするために塗り直されたりもしました。

このように、日常の交通安全を守り、かけがえのない命を守るために使われているのが税金です。

また、警察や消防の活動、ゴミの回収や処理といった公的サービスなどをうけられるのも、税金があることによるものです。これまで私は、税金の使い途について詳しく知りませんでしたが、税金は私たちが交通事故にあう危険性を減らしてくれるものでもあり、安全に生活すること、きれいな町で生活することを叶えてくれるものでもある、私たちにとってなくてはならない大切なものだと思うようになりました。

税金は、大きな負担になるものです。だから、納めない人もいます。確かに私も、毎年五月くらいに両親が色々な税金の払い込みに行っているのを見て、「税金なんてなかったら、もっと貯金ができるのに」と思うし、買い物に行った時も「このお菓子は消費税さえなければもっと安く買えるのに」と思うことが多々ありました。税金がどんなことに使われ、どのように自分たちの役に立っているのかを知らないから、納めたくなくなるのかもしれない。だから、一人一人が税金の使途を知り、みんなが納税で協力することによって、今の豊かな生活が成り立っていることを心に留め、私自身も納税の義務をしっかりと果たせる大人になりたいと思います。